

令和5年度福岡県中小企業対策審議会議事録

日時：令和5年10月31日（火）14：00～15：50

場所：福岡県中小企業振興センタービル2階大ホール

1 開会（略）

2 商工部長挨拶（略）

3 会長挨拶

（会長）

皆様、こんにちは。

大変お忙しい中を本審議会にお集まりいただきましてありがとうございます。

コロナが落ち着いてきまして、最近ちょっとインフルエンザが心配になってきております。

マスクを外しても誰も咎めることがないような世の中で、引き続き用心を怠らないことが大切ではあります。

それにつれて経済も緩やかな回復ということで、価格が全般的に上がりつつあるということ言えば、定義的にはもうデフレからインフレの局面に入っていると言えるようなそんな状況であろうかと思えます。

今、中小企業、これ県内企業の数で言えば99.8%、従業者数で言えば全国平均に比べて10ポイントほど高い80%の方々が中小企業で働いているという現状でございます。

けれども、最近少しコロナから解放されつつあるという一方で別の悩みも出てきております。

特にこの2年前から円安が急速に進行して、2年前は110円であった為替レートが、現在は150円ということで、4割程度貨幣価値が減価しているという状況でございます。

いろんな分析があるのですが、日本の実力からいうと100円から110円くらいという見方が多いのですが、それに比べて大幅に円安であると、これはアメリカのFRBが金利を上げるとか、ヨーロッパ中央銀行が上げるとかいう流れの中で、日本銀行だけがその姿勢を変えずに大型緩和ということをやってきて、その度に大幅に円安にふれたってことをみますと、金融政策とこれは決して無縁ではない状況であるかと思えます。

今日、植田日銀総裁の下で、金融政策の金利に対する締め付けですね、それを少し緩和するという方向で動いておりますので、今後まだ資料がどうなるかわかりませんが、いずれにしまして

も円安がもたらした一種の弊害と言うか、この1年間で特に激しかったのですが、いろんな製品というか、輸入原材料やアメリカのプロパン価格ですね、2年前からの、その元々の原材料とかの価格の上昇が大きかったですけど、ここ1年間は円安による価格上昇圧力と非常に強くてその下で中小企業が、かなり大変な状況に陥っているということでございます。

特にこの半年ぐらいの間に、倒産件数が増えてまいりました。

これ元々、ゼロゼロ融資ですね、その返済期限が今年度の上半期にかなり返済期限がくるということで、いろいろ県をはじめ、対策は打っておりましたので、酷いことにはなっていないです。

むしろ、予想を裏切ってと言いますか、コロナでの倒産は増えてはいますけども、その想定していたよりははるかに少ない、一方で、意外でもないのかな、この半年ぐらいの間に急増しておりますのが、原油高とか輸入原材料高とか、それから人件費高ですね、そういったコストの方の高によって、企業経営が成り立ちゆかなくなった、そういう倒産がかなり増えている。

特に輸入原材料あるいは原油高、これはすべての中小企業に相当きついボディーブローになっております。

コロナで何とか持ちこたえて頑張ってきたところに、そういった要因が加わって倒産が急激に増えていると、これどこの銀行でもみられるここ半年の現象でございます。

それから人手不足ですね、これで商売の機会を逸してしまう、或いは商売そのものが成り立ちゆかなくなるという現象もでてきております。

特に人手不足に拍車をかけていますのは、ベトナムとかいろんなところから人が日本に来るのを躊躇するようになっていて、いわば円安によって、日本での働きが貨幣的に見れば3分の2になるわけですから、中々日本に行っても、その稼げるという実感が伴わない、そこで日本に来るのをやめようかというような動きもあります。

そういう意味で非常に今大変な状況にあるということで、ちょっと個人的な感想になりますけども、中央の方でいろいろその景気対策なりなんなり議論されているのとは、ちょっと違う世界で議論されているような、そんな感じすら私はするわけです。

いずれにしても、中小企業をどうするか、一つは人手不足対策を国、自治体、それから産業界、どうやって乗り切っていくのか、それから、いろんなコスト高とかそういったものに対してどうするのか、まあ王道は、生産性能を高めるとかですからデジタル化を進めるとか、そういったことが王道でありますけども、それでは追いつかない、むしろここしばらくの現象としては、大企業はどんどん儲かっている。全部決算を計上してるというところが結構多いです。

特に海外取引をやっているところですね、一方で、中小企業は、あまり海外取引をやっていなくて、輸入一辺倒、特に製造業はそういった状況ですから、そういったところで製造したり、或いはそのサービス価格、いろんなエネルギー価格が必要であります、或いは人件費も必要である、これが、お取引先との間で適正価格で取引していただけない、いわば、買い叩かれっぱなしで、利益が

上げられないというこういう現象が、全国的にございまして、それを政府と経済界で、何とかしなきゃいかんと、労働界も一緒なんです。この問題は、そういうことでやってはおります。

けれども、達成十分にそれで価格を自分たちの思うようにできてますのは、企業でいえば1割あるかないかくらいの状況で、大体3分の2の企業は、中々転嫁できない。

転嫁するというと消費者への転嫁みたいな話になりますけれども、物価高で苦しんでいる時に何とかと言われるかもしれませんが、中々やはり中小企業の立場から言うと、コストを回収できないという状況にございます。

そうした中で、今日いろいろご議論いただきますけれども、一つは、インバウンドです。

そういった経済に対してプラスの効果を及ぼすわけですけど、そのインバウンドの質を高める、質を高めるって言い方は失礼かもしれないですけど、もっとバラエティーのある、特に欧米からのお客様を東京だけでなく福岡にも来ていただくことが大事だと思います。

これは我々にとって、ずっと前からの課題にございます。

それから技術人材ですね、これも「TSMC」の進出によってひっ迫しております。

特に半導体関係の企業は、福岡県内に400社ほどございまして、九州全体が1,000社、その中の4割を占めているという、これ単に熊本県だけの話ではないということにございます。

そういった人材をすぐに獲得できない、単純な労働とは違って、一定期間の勉強をしていただくという必要がありますけども、これが急には追いつかない、しかしそれをちゃんとやらないと日本のこれからの将来というのは、中々今までの低迷から脱せない、こういう状況にございますので、それをどうするのか、福岡県にとって非常に大きな問題にございます。

その二つを先ほど商工部長の方からですね、ご提示いただきましたので、今日はそういったことについて、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

以上を持ちまして、私の挨拶を終わらせていただきたいと思います。

4 議事

(1) 「中小企業の動向及び令和4年度中小企業振興施策の実施状況(案)」について(福岡県中小企業振興基本計画年次報告)

(商工政策課長)

資料「中小企業の動向及び令和4年度中小企業振興施策の実施状況(案)」【概要版】、【全体版】に基づいて説明

(会長)

どうもありがとうございました。

これ年次報告は、統計では 2022 とか書いてありますが 2022 年ですか、年度ですか。
ここで言及しているのは、今年の 3 月末までの状況ということですね。

(商工政策課長)

はい。そうです。

(会長)

それでこの報告書はそれを前提に出来上がると、この案は、仮に直すとしても 3 月末までの状況で直すということですね。

(商工政策課長)

そうなります。

(会長)

わかりました。それでは、ただ今の説明につきまして、皆様の方から何かご意見、ご質問ありませんでしょうか。

あの冒頭に提示されましたインバウンド等については、この議論の後で、皆様からご意見を聴取したいと思います。いかがでしょうか。

もしよろしければ、今ご説明のあった内容については、この最終報告書案は、このままでいくということでもよろしいでしょうか。よろしいですか。

では、そのようにさせていただきたいと思います。

4 議事

(2) 中小企業の現状と課題について

① 観光のインバウンドについて

(会長)

それでは、具体的な討論に移りたいと思いますけれども、先ほど商工部長からご提示のありました二つのテーマのうちのみず、観光のインバウンドについて、議論したいと思います。その前に観光振興課長から概要についてご説明をいただきたいと思います。

(観光振興課長)

資料「インバウンドの現状及び誘客の取り組みについて」に基づいて説明

(会長)

説明ありがとうございました。

それでは今の説明をもとに、皆様の方から、インバウンドに関して、ご意見等賜りましたら、幸いです。

ご意見のある方は、ご意見ご質問のある方は挙手の上、ご発言をいただきますようよろしくお願いいたします。それでは、いかがでしょうか。

(県議会議員代表委員)

このインバウンドの現状及び観光の取り組みについてですね、少し意見を述べさせていただきたいと思います。

県内インバウンドの拡大といいますか、取り組みについてはですね、県議会でも随分取り上げられて参りましたし、魅力発信という面ではですね、様々な議会筋からも提案をさしていただきましたけれども、なかなかやっぱり全国的な、それから世界的から見るとですね、まだまだ福岡に対して特に欧米豪のですね、観光客が少ないというのが現状でありますけれども、これは私も指摘を何回もさせていただきましたけれども、やはり福岡県内は各地にですね、もう本当に外国からインバウンドのお客さんがこられて、見て回れるようなですね観光資源、観光資産っていうのは、たくさんあるんですけれども、それがまず活用できてないというのが非常に深く私思います。

実は、観光局観光課っていいいますのは、商工部でありますし、文化振興課ということになりますと人づくり・県民生活部、さらには、文化財保護課っていうと、教育委員会ということでそれぞれですね、縦割りのやっぱり行政になってしまっているというのがありますので、ここは商工部長もお見えですのでやはり、県庁横断的なですね、そういう福岡県の魅力発信、さらには、地域の中で本当に観光になるようなですね、資源っていうのがたくさんありますので、それをやはりこの物語で作っていく。

例えば、博多部でいきますと寺社仏閣っていうのはたくさんありますし、中央区でいきますとですね、旧福岡城内の見所というのは、たくさん福岡部の方にもありますから、そうしたものをやはり発掘をして、今あるものはやはり観光として売り出すというのをもう少し力を入れていただきたいという風に思います。

幸いにも今日会長お見えでございますけれども、福岡商工会議所の方がですね、会頭をはじめとして、福岡博多の歴史文化を活かしたまちづくりに関する15の提言というのをですね、今年の10月に出されましたけれども、或いはまさに我々がこの間ですね、ずっと訴えてきた内容というのが、こうした提言の中に、ちりばめられているという状況であります。

従ってこうしたものをやはり、全県を網羅したですね、全庁横断的にぜひやっていただきたいという風に思います。

2年前には、2021年にはですね、福岡県置県150周年ということで、福岡県取り組みありましたけども、やはり1年で単発的に終わってしまっていると、しかも、なかなか部局横断的になっていないといったところもありますので、ぜひそうしたものをですね、進めて検討してですね、行政だけじゃなくて我々議会筋もそうなんですけども、取り上げていただきたいという風に思います。

たまたま先週、県議会の委員会で長崎に行きましたけども、長崎は原爆ドームとかですね、眼鏡橋とか、グラバー園とか大浦天主堂とかたくさん人が今はもう本当に観光客がものすごく多く来てあったんですけども、それだけではなくてですね、町の辻々に小さな祠とかですね、遺跡に写真入りの案内板がたくさん設置してあって、それをずっと観光客が周遊できるようになってるんですね。

だからそういったものもぜひ、他県のいいところもぜひ取っていただいて、もう福岡には冒頭申し上げましたように、非常に観光をできるような魅力ある資源っていうのはたくさんありますので、ぜひそれを活用するということですね、地域の活性化にも当然つなげていく。

そしていろんな商品にもそれを転嫁してですね、中小企業の方々のですね、活力にもつなげていくというようなことをぜひ力を入れていくべきだということでこれも意見で、構いませんので、一言、お話をさせていただきたいという風に思います。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。

いくつか論点があるわけですが、一つは史跡等ですね、整備というか、或いは案内だとかですね、多言語対応だとか、それからそこへ行く、道しるべとかですね、道標というそういったものがどう整備されているのか。

それから、各地を結ぶようなこの一つのストーリーというんでしょうかね、例えば古代とか、何かいろんなテーマがあるんだろうと思いますけども、そういうストーリー性をどう考えてるのか。

それから、部長の方には、縦割り行政ということについて、どう今後ですね、運んでいくのか。

委員のご指摘に対して、お答えできる範囲だけで結構ですけど、今お願いできればと思います。

(観光振興課長)

まず、県内各地に、様々な歴史文化の史跡など、いろんな資源がたくさんあるというご指摘まさにその通りだと思っております。

観光局としても、そのような課題認識でございまして、庁内で、観光関連の部署が集まって、会議体を設けて、情報共有など、連携するところはやっていこうということで、取り組んでいるところです。

多言語対応ですけれども。

(会長)

その前に史跡の整備だとかですね、例えば看板だとか、いろんな、そこに多言語対応も入っていると
思うんですけども、或いは、そこに、仮に車で行っていくとしたら駐車場だとかトイレだとか
ですね、それから施設が大きければ資料館だとか、いろいろあり得るわけですね、そこら辺の今の
整備状況はいかがでしょう。

(観光政策課長)

一応ですね、今、整備の状況ってのはですね、様々な所管のところですね、進めているところ
で、例えば公園のところであれば、公園の所管してる部署がですね、整備をするにあたって統一的
な案内板をですね、多言語でQRコードとかをつけてですね、やるというようなことを、私ども観
光部署も一緒に入りながら議論しながらですね、どうやってそういった公園をですね、楽しく過
ごしていただけるかと、

(会長)

ちょっといいですか。

県内のいろんなたくさん史跡等ございますけれども、それはもう整備できているってことで
すか。

(観光政策課長)

いえ、まだまだ足りない部分は、

(会長)

だからそこを聞きたいわけですね、まだだったらまだで結構ですから、じゃあ今後どうするのか、
ということですけども。

(観光政策課長)

例えばですけども、太宰府っていうのは、日本遺産ということで西の都としてですね、登録を
されていると、こういった部分についてもですね、統一的な案内看板をつけるとかですね、そうい
ったことを先ほどおっしゃられました、県庁の中の文化財保護課であったり、文化振興課であつた
り、私ども観光局、一緒になってですね議論をして、ストーリー性を持たせてどうやって周遊して
もらえるか、そのためにはどういった整備が必要なのかというのはですね、まさに今、文化観光推
進法というのもできまして、そういったものをどうやって活用してやっていくかというようなこと
は、議論をさせていただきながらですね、今太宰府は、一つの例と、西の都ですね、例としてご説

明をさせていただきましたけども、そういうですね、部局横断的な、市町村も含めたところで議論を進めているような事例は当然ございます。

(会長)

すでにでき上がっている、長崎であるとか、それから、例えば鹿児島も相当できておりますし、高知に行っても相当できています。

全国各地相当福岡に比べて進んでいるという風に、見えるのですけれども、福岡はいつまでに、そういった史跡等の整備が終わるのでしょうか。

(観光政策課長)

今おっしゃられたその質問に対してですね、明確にお答えすることっていうのはですね、例えば県内統一的にこうやるとかですね、そういったところは、今はまだいつまでにやるということは、まだ決められていない、

(会長)

例えばね、筑紫の磐井の遺跡、今どんな状況ですか。

県としては、今、まさにね、観光とか、そういう文化財をやっておられる、担当部局が筑紫の磐井、現状どう見ておられるのか、重要な遺跡ですよ。

一例ですが、即答できないと、やっぱり全体見ているという風には、言えないでしょう。

ですからちょっとそのあたりをここですべてお答えいただく必要ないんだけど、やはりそういう県内っていうのは相当広いですから、相当たくさん遺跡なり、史跡があったり、或いは文化財が、あちこちあつたりしますので、そのあたりを、どう全体像としてきちんと掴んで、それで個々の状況について、データベースをきちっと整備しておられるのかと、そこら辺が出发点になりますよね、それがないと、物語もつくれませんし、ちょっとその辺り総括して商工部長いかがですか。

(商工部長)

中々正直言ってですね、十分に今会長が仰ったような、対応はできていないというのは、もう正直なところ、そういう状況でございます。

ただ、今我々としてもですね、いろんな部局と連携して、いろんな挑戦をしてるところでございます。

また史跡もそうなんです、例えば、スポーツの関係で言えばサイクルツーリズム、これはツールド九州、これについては、インフラ整備のセクションであったりとか、スポーツ振興のセクショ

ン、そして我々の観光、商工部の観光振興のセクション、連携して、いろんな取り組みをやっているとございます。

こういった連携というのをですね、事例をしっかりと増やして行って、何とか正直言って観光、福岡県が遅れてるのではないかとご指摘で、これ非常に耳が痛いなと思っております。

観光資源はあるのに、それが活かせてないのではないかとご指摘については、しっかりと我々も受け止めてですね、ぜひ、たくさんの方が来ていただけるように、各部局連携を図って、すぐにはできませんけれども、良い事例をですね、積み上げて行って、また皆様にご報告できるようにしたいという風に思います。しっかりと連携して参ります。

(会長)

すいません。決していじめるつもりで申し上げたわけじゃないんだけど、ただやはり福岡県は、非常に九州の中で、断トツの経済力を誇り、放っていても人が集まる地域ですね、それだけに、なんていうんでしょうか、他の県は、人に来てもらおうということで、これまで相当必死になって、観光政策取り組んできたという面があると思いますね。

その点が少しですね、なんていうか、人が来てくれるしということで、あまり深刻に今まで、そんな気持ちになって対応してこなかったという面があるのではなかろうかと。

県議会議員代表委員のご指摘は、承ればそういうことで県議会でもいろいろご議論があるのだらうと思います。

特に福岡市とか、それから北九州市までも入るんでしょうけれども、先ほどからご提示のあるように中々人がどんどん来ますので。

それ以外のところにパッと人が行かないということに関して言うと、おそらく筑豊・筑後選出の先生方は、真剣なんじゃないかなと思います。

県全体をどう上手く周遊をしていただくかという観点で、総合的な政策に十分な予算をつけていただかないとうまくいかないので、財政部局ともしっかりと交渉していただきたい。

今の議論以外に、時間をとります。

(学識・専門家代表委員)

今年度からなので、ちょっと前後の議論、全然承知していないんですけど、お尋ねしたいと思います。

お尋ねしたいのは、欧米豪から誘客を図るための効果的な取組という点ですけど、これデータを拝見すると、いただいた資料の2ページで、一番上の円グラフですね、全国だと、東アジア53%、僕の足し算が合ってればですけど、53%ぐらいで、福岡県東アジア81%ですよ、そうすると福岡県の強みとして、東アジアで突っ走るっていう方向性もあり得ると思うんですね、そこをあえて、

今のところ薄い、全国的に見ても、別にヨーロッパとアメリカ、オーストラリア辺りそんな強くないと思うんですけど、そっちの方を取りに行くんだっていうなんか事情があるんですか。

東アジア、あえて突っ張らないというところの事情があれば教えていただきたいというのが1点目です。

もう1点実はあって、お尋ねしたいのがその2点目、福岡市など都市部に集中してるインバウンドをもっと県内各地に広げていこうというお話だったと思うんですけど、なぜそもそもこれ都市部に集中しているんでしょうね。

もし、例えばこれが、福岡市で買い物したいんだと、めっちゃめっちゃ買い物したいから、都市部にいるんだ、北九州とか都市部にいるんだっていうニーズで、福岡にいるんだったら、その人たちに、例えばその凄い、綺麗なサイトシーリングスポットがありますよって言っても、いや求めてないよってなるかなという気もするので、その都市部に集中していることってもしかしたら福岡の強みかもしれないですよ。

そしたら、なぜそこに集中しているのかっていうのがわかると、そこをもっと伸ばせばいいじゃないって話になるかもしれない。

もしかしたら、各地の観光資源というのは、まだまだもっと先の話で、まずは福岡の強みを生かして買い物をもっとさせようよって話になるかもしれない、ということで、その2点ですね。

なぜ、欧米豪にこだわるのかっていうことと、なぜ福岡にそもそも都市部、福岡市とか北九州市の都市部に集中しているとお考えなのか、その2点を教えていただければと思います。

(会長)

事務局いかがですか。

(観光振興課長)

まず1点目の東アジアが多いという点ですが、これから外国人の方にたくさん来ていただくとなると、直行便が、どんどん増えていくということにはなりませんので、これはリピーターをしっかりと増やしていくことにまずなるのではないかと考えています。

それから、リピーターもアジアの方が多という状況でございますので、福岡市にこられた方が、次は他のところに行ってみようという風になるのではないかと考えております。

今、都市部以外の6エリアという新たな地域を設定しまして観光地づくりに取り組んでいますが、この情報をしっかり発信していけば、リピーターになった方々が、他方部へも周遊していただけるのではないかと考えて取り組んでいます。

欧米豪の方については、直行便はまだハワイ・グアムしかありませんので、東京、大阪から入ってくるということになります。

欧米豪の方は、ゴールデンルートにまだたくさん来ておられる、広島までは来てるけれども、それ以西にはなかなか来ていないという現状がございますので、外国人の方を増やしていくということでは、欧米豪を増やすというのも新たな取り組みではないかという風に考えております。

それからもう一つの都市部への集中についてですが、基本的に宿泊施設が都市部に集中していますので、必然的に多くなると思うのですが、二次交通の問題や、しっかり情報が届いていないのではないかという課題認識がございます。

二次交通は、今、MaaSの取り組みを、県全体、九州一体で取り組んでいるところですが、先ほどの地方部の情報をしっかり発信していくということも、県内周遊に繋がるのではないかという風に思っています。

宿泊施設が都市部であっても、都市部から更に地方の方に足を伸ばしていただく、そういったことに繋げていきたいと考えております。

(会長)

ラグビーワールドカップ辺りから、県の皆様の目線が、少し欧米の人っていう風が変わってきたように思いますし、今回の世界水泳とか、ツールド九州とかだんだん欧米の方が来られる流れができてきつつある。

あと先ほど、福岡・博多の歴史文化を活かしたまちづくり、懇談会の15の提言、今日持って来ればよかったんですけども、その中に海辺の活用ということを書いておまして、スイスとかいろんなところに私も行って、現地を見てきたんですけども、例えばニースの7kmの海岸は元々海岸があったのではなくて、海岸というか磯浜しかなくて、それを川から小石を持ってきて7kmを敷き詰めて、海辺を作ったと、そこに、日光浴客がヨーロッパ中から集まっている。

これが、ニースが立派な観光地になった所以なのですけれども、国と地方を挙げて、あと民間ですね、取り組んだということで、行ってみたら本当に7kmにわたって皆さん、浜辺で日光浴をしている、泳いでる人はあまりいないのですよね、海水浴というよりは日光浴なんです。

しかも空港にはヨーロッパ中から、プライベートジェット機が、私目の子で見ましたけど100機以上は優に来ていたと、それから、ホテルから見たらどんどん夕方来ている、どこから来ているかというヨーロッパ各地と、特に北欧ですね。それとアラブとか、それから北アフリカ、地中海のその諸国から来ているとうことで、ニースみたいところがスペインからギリシャに至るまでずっとありまして、ヨーロッパの人たちは、夏になると3、4週間ぐらいはそこにじっといて、毎日毎日、ゆっくりして暮らすという、中々日本では考えられないような、暮らし方なのですけれども、その日光浴に対するその渴望というのは、ちょっと特別です。

福岡に来ていたフランス人だとかいろんな国の人達、私ずっと取材をして参りましたがけれども、皆さん、福岡には、新宮から糸島の方まで、海辺がこんなに、たくさんあって、それにどれも素晴

らしいと、日本の大都市で、そういう海辺を抱え持っているところって福岡ぐらいですよ。

なんで福岡の人は、もっと海辺に来て遊ばないのですかと、自分たちはもうしょっちゅう行ってきましたと、これ複数の外国人たち、特に日本を離れるとき皆さん挨拶に来られるんで、毎回聞くのですけれどももう 100%そういうご意見ですよ。

ですから我々自身が海辺の良さに気付いていない、一つ苦言を言われたのは、新宮の海岸で随分そのいろいろ漂着物があるのを、何で掃除しないのですかと、相当お叱りみたいなことをお聞きしましたけれども、それはぜひとも 15 の提言読んでいただければと思います。

特に欧米からのインバウンドをこちらにお招きする上では、ものすごく海辺の活用するのは有効な手ではなかろうかと思います。

外国に行って私いろいろまた富裕層と接触してきましたら、福岡は知らないけど北海道は知っていると、ニセコとかに雪を楽しみに行くと、こんなこと言ってました。

福岡も是非ともと言ったら、ホテルはどうなりましたかって、リッツカールトンできましたよって言ったら、じゃあ考えましょと、そういう反応で、要するに向こうの富裕層っていうのは、1泊10万円以上が当たり前の人たちなので、そういった人たちが、特に円安もあって尚更、今も東京では20万30万の部屋が当たり前で、それから福岡リッツカールトンも250万円の部屋がずっと埋まってるそうです。

我々とはちょっと違う感覚の人たちもどんどん工夫のしようによっては来ていただけるということなので、そういうことでレポートも書かせていただきました。ご参考にさせていただければと思います。それでは他にご意見ありましたらいかがでしょうか。

(学識・専門家代表委員)

初めて福岡県がそのように取り組んでいるというのを知ったんですけども、ジャストアイデアでしかないんですが、JR九州さんとかと組んで、九州全体で迎え入れていくってどうかなと思っただんですね、先ほどゴールデンルートって仰っていたんですけども、確かにと思って、九州の中でゴールデンルートって作れないのかなと、福岡県だけではなく、欧米豪もなんですけども、私アメリカに留学してたりですとか、カナダで海外勤務の経験があるんですが、なので欧米の友達がいっぱいいるんですけど、向こうの方たちって、それこそ長期滞在を目指して旅行ってする方が多いんですよ、もう1ヶ月単位で来られる方が多いので、そうした時に、福岡県だけで、呼び込むというのが難しいのかなとちょっと思いまして、何かそうやって九州全体で迎え入れるっていうような、そんな施策もあってもいいのかなと、ふと思ったので。

実現できるのかどうかわかりませんが、ジャストアイデアです。

(会長)

特に九州観光機構とかと何かやっておられるのですか。

(観光振興課長)

九州観光機構という組織がありまして、県の職員、民間からも来ていただいて、設立された組織です。

機構が九州をまとめて、海外へのPRを行っていますので、これからも連携してしっかりやっていこうと思っております。

(学識・専門家代表委員)

私からは、ホストファミリー制度を根付かせていただきたいというリクエストなんですけれども、ちょっと即効性とかがまた、長期的なことになるかもしれないんですけれども、福岡ってやっぱり観光名所が、もちろんなんですけれども、食べ物が美味しいとか、利便性が高いとか、やっぱり住んでみてよくわかる良さっていうのが凄くある県だと思っているので、少しでも長く、そういう制度を利用して、来ていただきたいっていうのが、ひとつあります。

ホストファミリー側にしても、異文化を学べたりとか、語学の勉強ということで、教育プログラムの一環として、そういう風にできたらいいかなと思っております、ホストファミリー制度であれば、必ずしも都市部でなくても、受け入れが可能なのではないかなと思って、リクエストです。

(会長)

事務局いかがですか。

(観光振興課長)

ホストファミリー制度は、今まで考えたことがありませんでしたので、新しいアイデアだと思えます。

海外でも教育旅行というのがございまして、特にオーストラリア、それから台湾などは、訪日教育旅行が大変盛んです。

台湾は、海外に行く教育旅行の実に9割が訪日をされ、オーストラリアは、日本語教育が盛んで、日本語を学ぶ方が、実際に日本に、教育旅行で行かれているという状況がございまして。

そういった訪日教育旅行に関心の高い国々の方々に、今、プロモーションをかけようとしているところでございまして。

今のアイデアなども、活用できるのではないかなと思っております。

(会長)

今の問題は、一つはオーストラリアだとかですね、そういうところが、留学生は日本から派遣しています。

私の娘の4人のうちの3人は、実は海外に高校時代留学をしたのですが、逆に日本に来る時は、そのお返しということで、受け入れをするということで、相当多数の方々が、そういう海外からの留学生を受け入れているという既存の制度があるわけです。

あともう一つは、ロータリークラブだとかいろんなところで、会員の中に、海外からの留学生を受け入れてくださるという活動の一環として、なされているというものもございますけども、ただ委員のお話だと、基金でも設けるとか何かして、仕組みを作らないと、ホストファミリーってというのはできないのだろうと思います。

斡旋をしたりだとか、それから費用の補助をしたりだとか、そのあたりは、行政では絡みようはあると思いますがどうですかね。

(観光振興課長)

簡単にはいかないとは思いますが、アジア太平洋子ども会議、たくさん子どもさんが来るような取り組みを、福岡市と一緒にやっている部署がございます。

ここでは、ホストファミリー制度があり、前例もございますので、基金というと中々難しいところもあるかもしれませんが、参考になる取り組みを研究してみたいと思っております。

(会長)

今後研究をよろしく願います。他よろしいでしょうか。

(学識・専門家代表委員)

いろいろ大きなお話、その基金を作るとか、いろんな大きいお話が多いなと思いつつ、拝聴してたんですけども、NHKのBSの番組ですね、クールジャパンという番組が日曜日の夕方にあるんですけども、1、2ヶ月ほど前に、外国人が日本に来て、楽しかったこと何みたいなランキングをやってたんですね。

ふとそれを、今日の観光のインバウンドって話の時にふと思い出したんですが、その時のベストスリーがですね、ベストテン形式で、下の方にやっぱりサイクリングであったりとか、地域回ったとかがあったんですが、ベストスリーは、ほぼほぼですね、着物と日本の体験、だったんですね。

一位が、ちゃんとメモしていないので、アバウトな記憶で申し訳ないんですが、一位は着物を着て歩くとか、着物を着た時の所作もきちんと教えるっていうところから、日本文化を体感するみたいな、そんなのであったり、あと、欧米の方のインタビュー多かったんですが、その時、欧米の

方々、温泉に入るってのはあまり好みではない、裸になりたくないって、だけれども、兵庫県の城崎の温泉地を着物を着て、そぞろ歩いたってところが、すごく楽しかったっていうのを、もう皆さん笑顔で答えて、城崎って、兵庫県の、結構不便な場所なんですけど、やはりそういうレアなというか、空気と、土地と、体験と、高付加価値のって商品開発って書かれていたんですけど、その空間とかその土地ならではと、そこでしかできない空気を味わえるみたいな、そういうところがうまく感じ取っていただけるような、プロモーションとか見せ方ができれば、ちょっとやってみたって思って足運んでいただけるんじゃないかな、なんて勝手な想像を今しておりました。

思い返せばですね、福岡の中には温泉地もあるし、温泉に入らなくても着物着て、場所のいいところとか、ふと思ったのが八女であったりとか、八女の福島であったりとか、うきはの吉井であったりとか、そういう景観が残されているところで、歩いていただくみたいな、そして、何か発信していただくみたいなことができれば、もちろんそこには、最初にもご議論のあった多言語対応ですとか、言葉の問題はやっぱりあると思うので、そういう県として、やはりインフラ整備していただけると、有難いんじゃないかなかっていうことと、いろんな体験はもう少し楽しみながら考えられるようなところがあってもいいんじゃないかななんて思いました。

(観光振興課長)

JNTOが出している海外の方の趣向のデータがございまして、やはり日本で歴史文化を体験するというのは、常に上位にくるほど、人気の体験になっております。

まさに委員のおっしゃる通りだと思います。

県内の八女市、博多の町もそうですけれども、町自体が文化を感じられる地域は、歴史文化をPRしていこうということで、取り組みも盛んでございます。

県としても欧米豪の方は、そういった地域の歴史とか、文化の成り立ち、それを守り続けてきた人々の取り組みに高い関心を持っておられるということがございますので、今、委員がご指摘いただいた点を踏まえて観光資源磨き、作りに取り組んでいきたいと思っております。

(会長)

大変重要なですね、観光関係の事業者というのはすぐ食だとかね、そういったことを先に言われるのですが、むしろ現代では食よりもそういった歴史だとか、文化だとか、そういうものを体験するというようなことの方が、価値をおかれるような傾向にあるように聞いておりますので、まあ一つ、そういう歴史文化、そういうことがあるからこそ、福岡商工会議所でもそういう議論をやったのですが、やはり単に物質文明で、何となく福岡もどんどん変わってきますけど、それに心の渴きを感じるような方々が結構増えてきました。

そういったものに、国内の人でもそうだし、ましてやの海外の方は、そういう歴史文化っていう

ことについて、体験を通してそれを感じるっていうのか、喜ばれるっていう傾向はあるようでございますので、是非とも県の方でもそういうことを検討していただければと思います。

それではこのテーマにつきましては、以上としまして、今後いろいろ県政の上で、参考にさせていただければと思います。

4 議事

(2) 中小企業の現状と課題について

② 技術人材の育成・確保について

(会長)

続きですけれども、二つ目のテーマです。

技術人材の育成・確保について、技術人材育成室長からご説明をお願いします。

(技術人材育成室長)

資料「技術人材の現状及び育成・確保の取組について」に基づいて説明

(会長)

ただいまご説明をいただきました。

ちょっとここでお断りしておきたいと思いますが、ちょっと時間管理上、若干、延長しないと、収まらないような感じでございますので、もしどうしても時間通り退出しなきゃならないという方は、差し支えございませんので、ここで退出いただいても結構でございます。

それでは、この問題についてですね、私の方からちょっと指名させていただきたいのですが、特に、この教育関係の方々、それから行政からですね、これに関わりのありそうな方々が、複数名来ておられますので、教育関係の委員にお願いしたいのですが、女子学生のテクノロジー分野の興味関心を高めるという、なぜ女子学生が、これ国際的にもそうですけども、中々こういう技術関係に進まないのか、どうすればいいのか、ということを含めてですね、ご所見賜ればと思いますがいかがでしょうか。

(教育団体代表委員)

今ご指名でございますけれども、申し訳ありませんが、あまりわからない部分も多いのですけれども、まず1点目の女子学生の理数系の分野への興味関心というのは、やっぱり中々ですね、割合で言いますと、どこの学校でも同じように男子学生の方が興味関心を示すというようなことが、どこの学校でも見られます。

なぜなのかというのは、ちょっともちろん教育側の問題が大きいのかもかもしれませんが、女子学生が工業地域、工業系の仕事につくということのイメージが、できてないんじゃないかなっていう風なことは感じます。

おそらく体験不足が一番大きいのかなという風に思っていますけれども、イメージをできていないという点でいうと、ちょっと他のことにも繋がるかもしれないんですけども、就職をするという際にですね、就職先を選ぶということがやっぱり中々自分でできない生徒が増えてきております。

それもおそらく体験不足であり、イメージ不足であり、おそらくイメージが、自分の職業生活がイメージできていないというようなことが大きいのかなという風に思っています。

それは、こちらの教育側のキャリア教育の問題も大きいとはいう風に考えてはおりますけれども、もし、今いろいろご提案いただいているような体験がですね、もっと気軽にいろんなところで体験できるものになると、また変わってくるのかなと、今私は高校の立場からお話しさせていただいてますけれども、小中学校も含めてですね、高校の生徒も、今私がおりますのは普通科高校ですので、進学をする生徒がほとんどですけども、職業系の学校でも、やはり学校外に出て体験をするというのは難しい状況にありますので、いろいろとご協力いただいて、こちらもちろんですけども、産業体験であったり、そういったところでどんどん子供たちが出かけていける仕組みを、一緒に考えていただけたら大変有難いなという風に思います。

(教育団体代表委員)

私が所属しております、西南学院大学は、文系の大学です。

ということで、理系の、技術系のところでは、少し具体的なことは申し上げられないところあるんですけども、私も今、委員が仰られました通り、本学でもキャリア教育を行う時には、大学の1、2年次といったような、できるだけ大学の早い時期に、将来の自分がなりたい姿や、自分が就きたい仕事というものを考えさせることが、重要であると認識をしております。

これ自体は、大学よりも前の、高校時代や、それよりも前の小中学校の時の社会科見学や、仕事の体験、産業の見学、といったところで、自分自身が本当に興味を持つ仕事だったり、これまで気づいてなかったけれども、世の中にはこんな仕事があるんだということを、まだ十分に小中学校、高校、大学、知らしめきれないのかなと感じています。

これは大学生でも十分にいえることではありますが、そういったことをできるだけ、早いタイミングで、知ること、それから気づくことによって、技術系の分野を深く学んでいきたいとか、将来このようなことを勉強して、自分はこのような将来像を描き、このような仕事をするんだっていうことを、明確にできるようにすることが大事なかなという風に感じております。

ということで、私も今、福岡県の取り組みには、非常に多くのメニューがあるんだなという風に感じましたが、これらを本当に気軽にといいますか、小中学生や高校生、それから大学生もそうで

すが、いろんな世代の、これからの世代を担う、若者たちに、こういった経験、気づきを与える機会が、もっとできてくれば、テクノロジー分野を目指す学生や、技術系の人材の確保など、即効性はないかもしれないんですが、将来的に考えますと、有効なことではないかなという風に感じております。

(会長)

今のお二方、総合しますとやはり高校時代に、将来的なこの職業のイメージとかいうのを持たすのが、大事じゃないかというようなご意見だと思うんですけども、いろんな施策をしておられますけども、これは県内の、高校生なり、そういった生徒たちのどれぐらいカバーしているんですかね。

(技術人材育成室長)

例えばですね、先ほどご説明いたしました、工業高校の取り組みであればですね、県内の工業高校はすべてですね、こういった産学官の連携の事業を行っているというようなところでございます。

ただ、その上の例えば学生を対象としたITデジタル教育の実施であるとか、そういったものになるとですね、実際人数についてはですね、やはりかなり少ないというような形になるかと思えます。

(会長)

工業高校卒業者の進路はだいたい工業関係ですよ。

普通科高校の生徒たちが、特に女子生徒たちが理科系を選ぶという上では、やっぱり先ほどのご意見ですと、早期の体験というが大事だということですけど、これは何%というか、どのぐらいカバーしてるんですかね、そういう教育は。

(技術人材育成室長)

例えばですね、私どもでは、いわゆるリケジョを育成するような事業というはですね、県の方では、やられていないというようなところではございます。

ですので、ちょっと網羅的にですね、どれぐらい受けてるのかっていうのは、申し訳ございませんが、この場でパッと答えることはできないんですけども、それぞれ、例えば、北九州大学が地元の高校と連携して行われているような取り組みがあるとか、そういったことはですね、承知をしておりますが、かなり割合的にはちょっと少ないのかなと、県全体をカバーしてるほどのことではないかなと思っております。

そこは我々の課題かなと思っております。

(会長)

いろんな分野でもそうなのですが、行政としてはこういうことやってますというのは、結構いいことやっているのですけれども、ところがカバー率が非常に低いということになりますとせっかくいいことをやっているけれども誰も知らないとか、或いはごくわずかの人たちしか行政の、そういった施策の対象にしか対象にならないというようなことで、いいことであれば、特に先ほど委員が仰っているような趣旨、これを踏まえていろいろ、対応するならば、数が増えないとどうしようもないということだろうと思いますので、ちょっとその辺りは、ご検討ですね、よろしくお願いをしたいと思いますけれども、あと行政側で委員いかがでしょうか。

(行政代表委員)

今回のテーマにつきましては、ちょっと職業安定部の所管になりますけれども、皆様、委員の方から、また県の説明聞いた中で、ちょっと私が感じた感想を申し上げることになりますが、よろしくお願いたします。

今テーマとしています県内技術系企業の状況ということで、中小企業の9割が、技術人材が不足しているというようなことで上がっておりまして、最初の方で、県の方から説明がございました、実施状況案、中小企業の動向案の中で、人材育成については、49%が不足とか、やや不足っていう回答で、その中で即戦力が欲しいんだけど、なかなか人材が獲得できない。

また人材育成については、特に行っていないということで、その育成するような能力ある社員もいなくなっていて、また社員自体も多忙で、例えばそういうような教育の機会があったとしても時間がないというようなことがございまして、私どもの労働局の方でも、人材開発の支援助成金という助成金によって、IT分野での未経験者の方ですとか、デジタルで成長分野の方ですとか、また自発的能力開発するような方に対しての育成の助成金制度を設けておりますけれども、やはり今そういったのを受けていただくにあたっては、労働局の観点からすると、社員が受けられるような形の労働時間の提供というんですかね、働き方改革ではないですけども、そういった部分の支援も必要なのかなっていうのを感じたのと、また、それぞれの企業によって様々な、やはり技術の差があるのかなと、必要とするニーズも違うのかなと、その辺が、中小企業でも、必要とされるニーズに応じたようなマッチング、また訓練の提供というのが、すごく大事なのかなという風を感じた次第です。

こういった取り組みというのは、やっぱり行政とか、産業界とか、また大学等も含めて、より一層、力を入れて取り組んでいく必要性が高いなって感じた次第です。

(学識・専門家代表委員)

私それこそ北九州大学の工学部の学生たちのキャリアの授業に携わっているんですが、単位制で

も授業になっているからですね。

工学系の大学の就職率高いんですけども、卒業生の多くがやっぱり県外に流出しているってのは、何となく肌感覚であったんですが、今日資料いただいてデータで見てやっぱりそうなんだなって感心していたところなんです。

そんな中でそれこそ今年、技術人材育成室が立ち上がったのは、とても注目していたところではありました。

ちょっと2点、質問なんですけれども、それこそ福岡テクノロジー人材創生塾、ここがあれですよ、先月まで中学生高校生の募集をしていたかと思うんですけども、定員40名ぐらいだったのに対してどれぐらい集まったのかなってところがちょっと興味の中で聞いてみたいところが一つです。

あと成長産業派遣企業派遣インターンシップ、これ6日間なんですよね。

弊社も大学生のインターンシップを、コロナ前に受け入れたんですけども、やっぱり中長期的受け入れられる体制って作るのは難しいものなのかなあと考えていて、弊社で1ヶ月受け入れたんですけども、やっぱり短くても1ヶ月ぐらいとか、それこそ女子学生を受け入れたんですが、1ヶ月ぐらいとか、長期ができるのであれば、ちょっと長期型のインターンシップっていうのをやっていかないと、3、4日とか1週間ぐらいのインターンシップでは、それこそ体験が大事っておっしゃっていたんですけども、まさにそこなんだろうなと思っていて、そういう中長期のインターンシップができるような、そういう仕組みができると、またちょっとキャリアの選択とかが変わってくるのかなと感じました。なので1点、どれぐらい集まったのかだけは、聞いてみたいところでした。

(会長)

女子学生が理科系を希望するためには、何か知恵がないかどうか、その点は、何かありませんでしょうか。

(学識・専門家代表委員)

女子学生が理科系を志望するとなったらやっぱり企業が変わっていかないと無理だと思うんです。

どうしても大学までは、女子学生も男子学生も正當に評価されていたのに、急に企業に就職をすると、女性だからってということで、私が今コンサルで入らせてもらっている製造業の会社の組合の組合員の方からご相談があつて、実はせっかく理系の女子の優秀な子を採用したのに、退職希望が出たと。

その理由を聞いてみたら、上司の方がですね、海外勤務をしてなんぼなんですけれども、職種のいんですね、同期で入社した男性社員女性社員がいた時に、その上司の方が、あんまり多分能力は変わらない、大差がないと勝手に私は思ってるんですけども、女性の社員さんにですね、君はやっぱ

りいずれ結婚とかもあるだろうから、今回は誰々君を海外勤務の候補に推薦するっていうのを聞いて、この会社では自分は無理だなと思ってやめたというところがあるんですね。

そういうところでいくと企業側も変わっていかないと、せっかく高校大学までは理系、今うちのクラスも1割ぐらいが女の子なんですけれども、せっかく学ぶのは好きで来てるんだけれども、そやって企業のことをよく知らないで、知っても頭打ちになる。

せっかく大学までは正当に評価されてたのに、企業に女性だからってということで、何だろう、頭打ちになるんだったらっていう選択、だから女性が活躍してる企業に移行と、そうなると理系のこういうデジタル、技術人材の方に行かなくなってるっていう傾向はあるのかなと感じているところ

(会長)

その女性は、どこにその後行かれたのですか。

(学識・専門家代表委員)

結婚もまだ何もしてない。転職したそうです。

(会長)

そうですね。いや、勿体ないですよ。

(学識・専門家代表委員)

すごい勿体ないです。それで組合の方が、すごい損失だということで、もちろん上司の方は降格になる、組織としてそういうことが蔓延してるだろうから、変えていかないといけないっていうところの問題提起で、ちょっと関わらせていただいたという経緯があるんですね。

(会長)

今、女性で途中でいろんな会社に行かれる方が多くて、結構優秀な方が多いんです。

割とその女性の方が、あまり会社に依存しているよりは、途中で採用してもらったのだったら、そういう傾向がね、あるような気がします。

やはり企業が変わる、或いはそういう受け入れをきちっとしていかなければならないというご意見ですよ。

ありがとうございました。時間がちょっと相当過ぎておりますので、はい、どうぞ。

(商工関係団体代表委員)

ちょっと時間が押してますけど、一つだけお願い含めてですね、相談させていただきたいと思えます。

いよいよ福岡県が半導体に行くという風にですね、力強く出てきました。

今、人材の話もあってるんですけども、ぜひですね、福岡県さんをお願いしたいのは、半導体は面白いわけですから、1980年代中頃は、全世界の生産量のテンパーセント九州シリコンアイランドというぐらいですね、やっていた時があって、それから落ちてしまったんですけども、もう1回、TSMCが来ることによってですね、賃金もとんでもない賃金なくなってしまっ、人がいよいよ来なくなってしまうんですけども、それを言っても仕方ないことですから、半導体がいよいよ面白くなってくるんですけども、私も次世代の半導体に参入しようと思って、小さな会社なんですけれども、さあやるぞという風に意気込んでいるところなんですけれども、この半導体に入ろうとしてもさっきの学生の話もそうなんですけれども、結局、両親が行き先の企業を決めるとか、本人の気持ちは、小さな会社には行きたくないとか、もうそんなことになってしまっ、せっかく人材育成を福岡県がやっても、その人たちは福岡県内残らないで、熊本を中心に世界に行くという風になってしまうと、せっかく何のために人材育成してるんですかという風になってしまうんですけど、こんなところも含めながらですね、やはり企業さんに福岡県内の大きな力のある企業さがあるわけですから、そういう企業さんが、半導体を今までは部品として買って、物を作ってたんですけども、その物も当然どんどん作って欲しいんですけども、半導体に絡むような仕事ができる企業さんをですね、どんどん、ぜひ、相談していただきながら作っていただいて、そうすると、そういう大きな会社には、当然、学生さん入っていきますから、当然入っていくんですけど、半導体あるわけですから、そういうところにもっと力を入れていただければ、いいんじゃないかなという風に思うのとやはり半導体面白っていうところですね、ぜひ、小さい子どもたちから大人含めてですね、わかって欲しいし、わからせて欲しいし、そして福岡県内の皆さんもですね、ぜひ半導体の勉強をしっかりとっていただいてですね、やはり広げていただくような、そういう施策が、やはり今回の中でできれば、私は表面処理で、次世代半導体に行きたいと思って、今、一生懸命研究を始め出したんですけども、でもやっぱりお客さんがいないと私の仕事には繋がらないわけですから、だから私のお客さんになるような、例えば、いろんな企業さんが、力のある企業さんが、小さな会社がありますので、そういう企業さんが、仕事ができるようなそういう環境づくりをしていただきたいし、そういう立派な企業さんをどんどん福岡県に誘致して欲しいし、しないと結果的に、福岡県は人材育成だけをやって、その人たちは福岡県外に出て行ってという風になってしまいそうな心配をしておりますので、その辺含めてぜひ、何かお考えがあれば、教えていただきたいなという風に思えます。

(商工部長)

しっかり頑張っていきたいと思いますが、一つは本当に優れた技術を持つ魅力のある企業、中小企業で多いということ、ぜひ、人材育成だけでなくですね、そうした県内企業の魅力も、若者にしっかり発信していきたい、そのように思っておりますし、また、取引ができるような企業の誘致これもですね、我々半導体の拠点も目指しておりますので、しっかりと取り組んでいくことをお伝えしたいと思います。

(会長)

時間がもう過ぎておりますので、審議はこれで打ち切りたいと思います。

いずれにしましても人材については、動機づけであるとか、魅力の発信だとか、それから受け入れ体制だとか、様々な問題がございますので、県として、できる限りのことは取り組んでいただきたいとお願いしたいと思います。

委員の皆さんには、活発なご議論ありがとうございました。

これをもちまして、議事を終わらせていただきたいと思います。と存じます。

5 閉会 (略)